

しずおかの里地と人をつなぐ

里風通信

さとかぜつうしん

農山村と企業・大学の連携が広がっています

多様な主体と「協働」する邑づくり

vol. 12

令和2年(2020)2月

里風通信

satokaze tsushin 2020



持続可能な農山村づくりのためにできること P01

SDGsとして 邑づくり 農山村との協働に参加しませんか? P02

鈴与株式会社×NPOせんがまち棚田倶楽部 P03

コミュニケーションの活性にも一役 社員や地域との交流の場に

静甲株式会社×NPO法人フロンティア清沢 P05

邑の事業を支える縁の下の力持ち

農山村の人たちも参加しています。新たな出会いがあるかも。

企業・大学のみなさん

窓口には県の地域づくりアドバイザーや、環境学習コーディネーターが在籍しています。

むらづくりワンストップ窓口によるこそ

「これから農山村で何か一緒に取り組みたい」と思ったら、お近くの「むらづくりワンストップ窓口」にぜひご連絡ください。農山村地域の特産品の活用、農山村での福利厚生、農山村との体験学習や社会貢献、地域課題のビジネス化などワンストップ窓口がアドバイスやマッチングをお助けします。



伊豆地区で行なわれた「情報発信のための、伝わる写真の撮り方講座」
武智一雄さん(カメラマン/静岡県ふじのくに観光振興アドバイザー)を講師に迎えました

情報発信

旬な農山村の情報を無料で「むらサポ」のホームページやFacebookで広報します。

【情報内容の例】

- ・農山村でイベント開催
- ・ボランティア募集
- ・農産物販売の開始 etc...



東部地区で行なわれた「伝えたい相手に“伝わる情報発信のコツ”を学ぼう」の研修会
谷浩明さん(東京都杉並区広報専門監/コミュニケーション・デザイナー)を講師に迎えました

各種相談

ご相談いただければ、無料で一緒に考えます。

【相談内容の例】

- ・地域づくり研修企画
- ・特産物の開発
- ・農山村移住
- ・農山村の6次化
- ・農山村とのマッチング

連携支援

外部人材の連携支援
各種ノウハウや知恵を持った人たちをご紹介します。

【情報内容の例】

- ・新たな特産品開発
- ・地域を盛り上げる仕掛け
- ・農家民宿を始めたい

むらづくりワンストップ窓口

地域づくりに役立つ研修会や相談会、地域交流会を年に数回開催します。

参加無料

伊豆地区 特定非営利活動法人 NPOサブライズ
伊豆市修善寺75 ドットツリーオフィス

☎0558-99-9120 (平日9時~16時)
アドバイザー:飯倉清太氏

東部地区 特定非営利活動法人ホールアース研究所
富士宮市下袖野165

☎0544-66-0790 (9時~17時)
アドバイザー:山崎宏氏

中部地区 一般社団法人 SACLABO
藤枝市若王子705-2

☎070-5332-3955 (9時~18時)
アドバイザー:渡村マイ氏

西部地区 浜松市市民協働センター
(浜松市市民協働サポートグループ)
浜松市中区中央1丁目13-3

☎053-457-2616 (9時~21時30分)
※12月29日~1月3日を除く
アドバイザー:山内秀彦氏

「ふじのくに美しく品格のある邑」に関する情報はこちら



ふじのくに
美しく品格のある邑
Charming and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"



公式ウェブサイト



公式Facebook

美しく品格のある邑

公式ウェブサイト
<http://www.fujinokuni-mura.net/>
公式Facebook
<https://www.facebook.com/muradoki/>

静岡県内の農山村の旬な情報や企業との連携事例などの情報はこちら



しずおか
農山村サポーター



公式ウェブサイト



公式Facebook

しずおか むらサポ

公式ウェブサイト
<https://www.shizuoka-murasapo.net/>
公式Facebook
<https://www.facebook.com/shizuokamurasapo/>

農山村との協働に参加しませんか？



今世界中で注目されているSDGs。
企業としてすでに取り組んでいる企業もありますが、
ここでは農山村との協働におけるSDGsの事例をご紹介します。

SDGsとは？

持続可能な開発目標(SDGs)は、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。SDGsの目標は一見、国などの広い範囲での話のように聞こえますが、農山村地域での取り組みにあてはめてみると、活動の一つ一つがSDGsの目標に繋がっています。

～例～

- 8:「働きがいも経済成長も」**
…マルシェの開催で農産物の販売機会の創出
- 9:「産業と技術革新の基盤をつくろう」**
…
- 11:「住み続けられるまちづくりを」**
…遊休農地の活用
- 15:「陸の豊かさも守ろう」**
…継続的な棚田保全活動の実施
- 17:「パートナーシップで目標を達成しよう」**
…地域と企業の協働活動

～事例～

芋焼酎
「天子の雫」商品開発！

天子ヶ岳の郷保存会
×
日本大学 生物資源科学部

遊休農地を学生実習の場として活用
お米などの収穫物は大学の給食でも
利用されています。

カーディーラーで
呂マルシェ

あいおいニッセイ 同和損害保険(株)
×
トヨタカローラ静岡(株)
×
オクシズ

店舗を利用したマルシェでイベントの
情報発信強化・地域商品をPR
双方にビジネスチャンスを生み出す

景品として
むらの特産品を活用

日本生命保険相互会社
×
ふじのくに 美しく品格ある邑

日本生命ゴルフコンペの景品活用で、
農山村の商品の認知度アップ
むらサポ募集のチラシも配布

遊休農地の
活用に取り組む

静岡鉄道株式会社
×
大川地区自治会連合会

静岡茶の始祖「聖一國師」の縁で遊休農地
の活用へお茶摘み、稲刈り、そば収穫
などの農作業を通して協働しています。

いきものと
子供をつなぐ絵本
『はるのたなで』を発行

せんがまち
×
ウェブサクセス
×
静岡大学棚田研究会

継続的な棚田保全活動の中から、
地域・企業・大学の思いが一つになり、
絵本の企画・制作・発行を行いました。

ドローンを使った広報

NPO法人 中山間地活性化協議会
×
(株)アイエグゼック
×
県内10地域の邑

地域とともにPR動画の制作、ネットで配
信することで反響を呼びました。

持続可能な農山村づくりのために

～農山村のニーズ～

「地域外の人との関わりが有効!!」
人口減少・高齢化・・・
遊休農地の増加・・・

- 美しい自然や景観の保全 「一緒に保全活動をしてもらいたい」
- 広報活動 「この地域の良さを知ってもらいたい。」
- 特産品の開発 「アイデア、スキル募集！」
- 体験プログラムの開発 「実際に来て体験してもらおうための入口づくり」

～企業・大学などのニーズ～

「社会貢献の必要性」

期待される効果

- ・CSR(社会的起業責任)やCSV(社会的起業価値)としての取り組み
- ・企業イメージのアップ
- ・地球環境保全への貢献
- ・農山村でのビジネス展開
- ・社員研修・人材育成「学び合い・高め合い」
- ・福利厚生「自然の中での豊かな体験」

STEP 1 農山村の魅力を知ろう 協働のカタチを知ろう

様々な情報媒体を使って農山村の情報や企業や大学連携の事例を紹介しています!

※発行に合わせての郵送も可能です。

STEP 2 情報を受け取る 登録する

①公式ホームページから「むらサポ会員」に登録いただくと...
旬な農山村のイベント情報が週に一回届きます。

②「むらサポ会員(法人・団体サポーター)」にご登録いただくと...
農山村応援法人・団体としてむらサポホームページに
ロゴとメッセージをご掲載します。

(配信内容例)

- 桜の見頃、見所はここ!
- 〇〇村のグルメイベントあります
- セミナー開催します
- そば祭りが開催されます
- 旬な農産物が〇〇で買えます

STEP 3 地域との繋がり

むらサポ等で発信される内容を見て農山村を訪れる・イベントに参加する。

- 農山村を訪れること、地域の人と交流するのが楽しい! また来たい!
- 地域の人にも喜んで、また来てほしい!
- 継続して活動へ参加

①むらサポ法人・団体サポーターとして
単発のイベントや、単年度での協働が可能です。
協定の締結はありません。

②一社一村しずおか運動として
特定の静岡県内の農山村地域との協定を締結し、
3年以上の計画のもと、計画に沿って活動します。
協定を締結する際には、行政も間に入り、調整を行います。

コミュニケーションの活性化にも一役社員や地域との交流の場に

耕作放棄地を使った酒米作り

9月の下旬に菊川市にある千框の棚田では、むらサポの会員企業である鈴与株式会社とNPO法人せんがまち棚田倶楽部のみなさんの指導のもと、お米の脱穀やすがい作り、稲刈りなどを行いました。これは鈴与の経営理念でもある、『C』(※1)活動の一環で、耕作放棄地を利用して酒米作りに取り組んでいます。酒米作りは茨城県牛久市で2018(平成30)年から始まり、収穫したお米を使って清水区由比にある神沢川酒造場で日本酒を製造しています。

鈴与がむらサポに登録したのは、地域への社会貢献や社内のコミュニケーションを活性化させるために静岡県内にある農山村での活動を検討していたところ、株式会社エムスクエア・ラボ(※2)が仲立ちしてくれたことがきっかけ。そこで、千框の棚田や菊川ジュニアビレッジ(※3)との協働活動が実現したのです。



オレンジ色のユニフォームを着て作業が行なわれました

地元のみなさんとのふれあいの場

この日の活動には鈴与の社員とその家族のみなさん60名ほどが参加。稲刈り作業では、代表取締役社長の鈴木健一朗さんも率先して稲を刈り、最後は2チームに分かれたの稲刈り競争など、和気あいあいとした雰囲気でした。

経営企画室 経営企画チーム チームリーダーの大脇隆一(おおわきりゅういち)さんは、「6月の田植え、8月の草刈りと、今回の稲刈りの3回作業をしました。せんがまち棚田倶楽部のみなさんのサポートのもと、社会や地元のみなさんとふれあいができますし、職場を離れて家族と一緒に活動できるのもすごく良いことだと思っています」と言います。



経営企画室 経営企画チーム チームリーダーの大脇隆一さん

“共生(ともいき)”を通じた多様な主体との交流

むらサポの活動を通して、会社にどんな変化が起きたのか伺いました。「以前から行なっていた“共生”という活動では、家族も一緒にひとつの目標に向かって作業をすることで地域や環境保全について考える機会になりますし、大学生や地元の方とも交流できます。子どもたちも普段なかなか扱えない脱穀機などの農業機械を使える良い機会にもなっています」と言います。せんがまち棚田倶楽部事務局長の堀延弘さんは、この活動を通して「今までお付き合いがなかった鈴与さんと協働を行ったことで、棚田のことを知っていただけの機会になりました。酒米作りは今回が初めてでしたが、今後は自分たちでも作ってみようかという話になっています。むらサポは、外から新しいことが入



せんがまち棚田倶楽部事務局長の堀延弘さん

ってくるのがすごくいいですよ」と言っていました。

地域との関わりを大事にする鈴与と、多様な主体との関わりで棚田保全に取り組みせんがまち棚田倶楽部。これからも、地域と連携をはかりながら活動をしていきます。

(※1)Cコーポレート・アイデンティティ 鈴与の「お客様や地域社会、社員相互の関わりにおいて、本業や地域貢献などの活動とともに経営のよりどころである“共生”を実現する活動」の意

(※2)株式会社エムスクエア・ラボ 菊川市を拠点に、農業者・購買者・消費者をつなぐ事業を展開。冷蔵車が直売所を巡回する「やさいパス」や、生産性向上にむけた農業ロボットの機械開発などに取り組み、次世代へ継続可能な社会づくりに貢献している。

(※3)菊川ジュニアビレッジ 菊川市の魅力を伝えるために小6〜中2までの子どもたちが集まり、1年間を通して商品づくりから販売までを行う2016年に発足した会社。現在は菊川市でハーブの栽培を行い、「本気のハーブティー」と名付けられたハーブティーを販売している。

むらサポ

- ・株式会社エムスクエア・ラボが中立
- ・千框の棚田や菊川ジュニアビレッジとの協働
- ・遊休農地を活用した酒米造りを実施
- ・共生を通じた多様な主体との交流

呂への効果

- ・棚田のことを知ってもらう機会になった
- ・遊休農地の活用
- ・新たな活動をするきっかけとなる

鈴与株式会社

- ・地域への社会貢献をしたい
- ・社内コミュニケーションを活性化したい
- ・静岡県内の農山村での活動を検討



収穫したそばを使ったそば打ちの懇親会が行なわれました

邑の事業を支える縁の下の力持ち

10年にも及ぶ協働活動

静甲株式会社が農山村地域の活性化を図ることを目的として、清沢地区(静岡市葵区)のNPO法人フロンティア清沢と一社一村しずおか運動の提携をして10年。

協働で活動をするようになったのは、静甲が社会貢献や会社の福利厚生を充実させたいと考えていた時に、静岡県の農地保全課から一社一村しずおか運動を紹介してもらったのがきっかけ。年間を通して活動をしていくにあたり、清沢で行われるお茶感謝祭やふるさと祭りなどのイベント時には交通整理などで協力しています。また、春や秋に行われる餅つきの手伝いや、遊休農地を使用したそば作りでは種まき、草取り、収穫を行い、懇親会としてそば打ちも開催しています。

すっかり寒くなった12月の中旬に行われたそば打ちの懇親会には、若手社員12人が参加し、地域の方々に指導してもらいながら和気あいあいと作業をしていました。「若い人

と言います。活動に行くと、邑の方々がいノシシの肉を振る舞ってくれたりするのも協働活動の楽しみのひとつだそうです。

会社の80周年記念の際には、清沢産の無農薬レモンを使用している「ぶっかけレモン」を社員や取引のある会社にプレゼントするなど、邑の特産品の宣伝も怠りません。このようなサポートは、邑を多くの方に知ってもらおうきっかけにもなります。

活動のおかげで 邑の事業が継続できる

フロンティア清沢も、静甲との活動により少しずつ遊休農地を利用できるようになっていきます。「ぶっかけレモン」の販売や、レモンの収穫でも協力をしてもらっているそう。おかげで、邑の事業を継続することができ、お互い良い形で協働ができていと言います。

清沢としては、これからもっと地域全体を活性化させていきたいと考えており、協力を得ながら活動をしていくそうです。



コミュニケーションをしながらそば作りをします

●農村側の ニーズ

- 清沢地区**
- ・遊休農地を活用したい
 - ・レモンの収穫、販売に人手が欲しい
 - ・継続的な活動をしたい
- など

●企業側の ニーズ

- 静甲株式会社**
- ・社会貢献をしたい
 - ・会社の福利厚生を充実させたい
 - ・社内のコミュニケーションを活性化したい
- など

連携



効果

- ・人手不足改善
 - ・継続的な活動の実施
 - ・地域に活気
 - ・地域貢献
- など



自分で打ったそばは格別です

特産品を知ってもらったための 宣伝も

静甲では協働活動をすることで、辞めてしまう新入社員が減ったと言います。とい

が多いので、活気があっていいですよ」と、フロンティア清沢のみなさんが言うように、受け入れる側としても作業を楽しみにされているようです。

一社一村しずおか運動とは 農山村と企業が対等な関係のパートナーシップを組み、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かした双方にメリットのある協働活動の実現を目指す取り組みです。